

種子島の水生昆虫の記録 (2020)

中峯 敦子¹・中峯 浩司²

Records of Aquatic Insects Collected on Tanegashima Island in 2020

Atsuko NAKAMINE¹ and Koji NAKAMINE²

キーワード：水生昆虫, 種子島

調査者

中峯敦子：鹿児島県立博物館学芸主事

中峯浩司：鹿児島県立博物館外部協力者, 鹿児島昆虫同好会会員

はじめに

種子島は、標高300m足らずの比較的平坦な島であるが、古くから稲作が盛んに行われている。島内に広がる水田は、コンクリート三面張りの用水路が整備されているが、一部、昔ながらの盛り土の畔や土水路が維持されている。また、開発されずに残されているため池や湿地、川、海岸、マングローブ林など多様な水辺の環境が、広く島内に点在している。このことにより、各地で急激な減少が見られる水生や海浜性昆虫が生息する環境がいまだに残されている。

種子島の昆虫類、特に水生昆虫については、1987年の調査をまとめた松井(1988)や松井・高井・田辺(1988)の報告があるものの、その後のまとまった報告はなかった。よって2018年～2019年の調査をまとめた中峯(2020)や中島ほか(2020)は、近年の種子島の水生昆虫相を概観する、最新のものである。

筆者らは、さらなる分布情報と生態情報の蓄積のために、2020年に種子島で調査を行った。今回の調査では中峯(2020)の調査地を含むのべ18地点で、水生昆虫、特に生活史の全ステージが水生の、いわゆる真正水生昆虫を中心に採集し、初記録のホソセスジゲンゴロウ、ハイイロゲンゴロウ、チビマルガムシ、ヒメイトアメンボ、メミズムシ4種を含むコウチュウ目32種、カメムシ目19種の合計14科51種を得たので報告する。

1 調査者と調査日について

2020年、種子島の水田地帯、池、沼湖等で延べ7日間、調査を行った。調査者と調査日、調査地は次のとおりである。また、調査地の位置は、図1に示した。

以降、調査者(採集者)名は、中峯敦子を(A)、中峯浩司を(K)と略記する。

調査日

2020年3月7日(K)

- ① 西之表市川氏
- ② 西之表市西之表石堂
- ③ 西之表市西之表、県農業試験場近く

2020年3月8日(A)(K)

- ④ 西之表市西之表あっぱ〜らんど
- ⑤ 西之表市住吉上熊野

2020年3月20日(K)

- ⑥ 西之表市古田上之町
- ⑦ 西之表市西之表池野
- ⑧ 西之表市安城立山
- ⑨ 中種子町野間大牟礼
- ⑩ 中種子町増田二十番

2020年3月21日(K)

- ⑪ 南種子町荃永中之町
- ⑫ 南種子町西之官三牧
- ⑬ 南種子町荃永新上里

2020年6月27日(K)

- ⑭ 西之表市古田十三番

2020年10月3日(A)(K)

- ⑥ 西之表市古田上之町

1 鹿児島県立博物館 2 鹿児島県立川内高等学校

⑮ 西之表市国上湊川へゴ自生地入口

2020年10月4日 (A) (K) (図2・3)

- ⑯ 南種子町中之上河内
- ⑰ 南種子町中之下夏田
- ⑱ 中種子町坂井

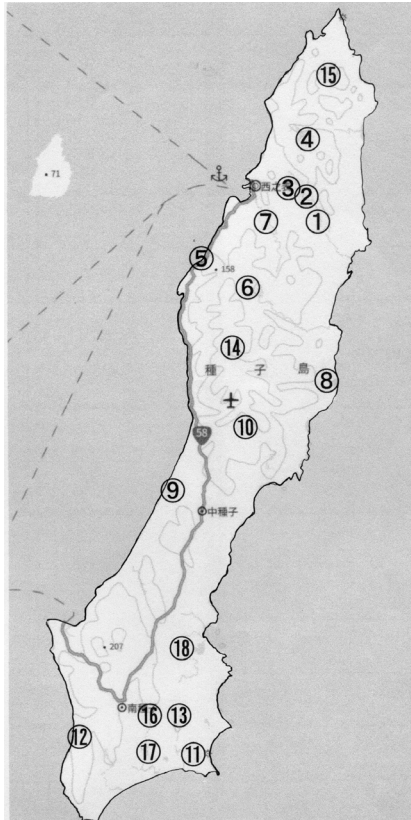


図1 採集地

2 調査方法について

採集は、水網（網目1mm×1mm）を用い、水面からの見つけ採りの他、水底の砂泥、水草帯、陸上の草本が覆いかぶさるよどみ、岸際の植生帯などをすくい、得られた昆虫を採集した。現場での同定が可能な大型種や個体数の多い種、希少種の採集は最小限にとどめた。また、肉眼で判断できない種は持ち帰り、乾燥標本にして (A) (K) それぞれが同定を行った。なお、すべての標本の保管は、鹿児島県立博物館で行う。

3 調査結果

採集の結果は以下のとおりである。データは採集地、採集日、採集個体数、雌雄、採集者の順に示した。また、特筆すべきコメントがある種については、データの後に記した。学名、種の配列等については、中島ほか（2020）に従った。

コウチュウ目（鞘翅目） COLEOPTERA

コガシラミズムシ科 Haliplidae

・コガシラミズムシ

Peltodytes intermedius (Sharp, [1873])

- 南種子町中之上河内 (4.X 4exs.) (A)
- 〃 (4.X 33exs.) (K)
- 南種子町中之下夏田 (4.X 2exs.) (A)
- 〃 (4.X 4exs.) (K)
- 中種子町坂井 (4.X 3exs.) (A)

・マダラコガシラミズムシ

Haliplus sharpi (Wehncke, 1880)

- 南種子町中之上河内 (4.X 10exs.) (A)
- 〃 (4.X 7exs.) (K)

中島ほか（2020）によると生息地は局地的で稀な種であるという。確かに採集できたのは1地点のみだったが、個体数は多い。松井（1988）では採集されていない種である。（図4）

コツブゲンゴロウ科 Noteridae

・コツブゲンゴロウ *Noterus japonicus* (Sharp, 1873)

- 西之表市西之表あっぱ〜らんど (8.III 1ex.) (K)
- 西之表市住吉上熊野 (8.III 4exs.) (K)
- 南種子町茎永中之町 (21.III 6exs.) (K)
- 南種子町西之官三牧 (21.III 7exs.) (K)
- 南種子町中之下夏田 (4.X 9exs.) (A)
- 〃 (4.X 4exs.) (K)

・ムツボシツヤコツブゲンゴロウ

Canthydrus politus (Sharp, [1873])

- 南種子町茎永中之町 (21.III 3exs.) (K)
- 南種子町西之官三牧 (21.III 11exs.) (K)
- 南種子町中之下夏田 (4.X 3exs.) (A)

ゲンゴロウ科 Dytiscidae

・コマルケシゲンゴロウ

Hydrovatus acuminatus (Motschulsky, 1859)

- 南種子町茎永中之町 (21.III 4exs.) (K)
- 南種子町中之下夏田 (4.X 1ex.) (A)
- 〃 (4.X 2exs.) (K)

・チビゲンゴロウ

Hydroglyphus japonicus japonicus (Sharp, [1873])

- 西之表市住吉上熊野 (8.III 2exs.) (K)
- 南種子町茎永新上里 (21.III 4exs.) (K)
- 南種子町西之官三牧 (21.III 2exs.) (K)
- 南種子町中之上河内 (4.X 1ex.) (A)
- 〃 (4.X 2exs.) (K)

- ・サザナミツブゲンゴロウ
Laccophilus flexuosus (Aubé, 1838)
中種子町坂井 (4.X 1ex.) (A)
中島ほか (2020) によると、南西諸島に生息するが、局地的で一般に個体数も少ない。近年、種子島でも発見され、同島の*Laccophilus*属の記録は、ツブゲンゴロウ*L. difficilis*、コウベツブゲンゴロウ*L. kobensis*、シャープツブゲンゴロウ*L. sharpi*と本種の計4種になった。(図5)
- ・ホソセスジゲンゴロウ
Copelatus weymarni (Balfour-Browne, 1947)
南種子町中之上河内 (4.X 6exs.) (A)
〃 (4.X 8♂12♀) (K)
中島ほか (2020) によると、国内での分布は北海道、本州、四国、九州、対馬である。松井 (1988) や松井ほか (1988) にも種子島での記録がなく、今回が初記録となる。(図6)
- ・リュウキュウセスジゲンゴロウ
Copelatus oblitus (Sharp, 1882)
西之表市古田十三番 (27.VI 3♂2♀) (K)
農道にできた水たまりで得られた。
- ・チンメルマンセスジゲンゴロウ
Copelatus zimmermanni (Gschwendtner, 1934)
南種子町中之下夏田 (4.X 2exs.) (A)
- ・マメゲンゴロウ *Agabus japonicus* (Sharp, 1873)
西之表市川氏 (7.III 1ex.) (K)
西之表市西之表あっぱ〜らんど (8.III 3exs.) (K)
西之表市古田上之町 (20.III 3exs.) (K)
南種子町荃永中之町 (21.III 7exs.) (K)
南種子町西之官三牧 (21.III 6exs.) (K)
南種子町荃永新上里 (21.III 3exs.) (K)
- ・ヒメゲンゴロウ *Rhantus suturalis* (Macleay, [1825])
西之表市西之表あっぱ〜らんど (8.III 2♂1♀) (K)
中種子町野間大牟礼 (20.III 3♂) (K)
南種子町中之上河内 (4.X 3♂) (A)
〃 (4.X 1♂1♀) (K)
南種子町中之下夏田 (4.X 1♀) (A)
〃 (4.X 1♂1♀) (K)
中種子町坂井 (4.X 1♂) (A)
- ・ハイイロゲンゴロウ *Eretes griseus* (Fabricius, [1781])
中種子町野間大牟礼 (20.III 3♂) (K)
採集できたのは上記の1地点のみだった。これまでの記録が無く、今回初記録である。
- ・シマゲンゴロウ *Hydaticus bowringii* (Clark, 1864)
西之表市西之表あっぱ〜らんど (8.III 1♂) (K)
西之表市古田上之町 (20.III 1♂1♀) (K)
- 中種子町野間大牟礼 (20.III 1♂2♀) (K)
南種子町西之官三牧 (21.III 1♂) (K)
中種子町坂井 (4.X 2♂) (A)
- ・ウスイロシマゲンゴロウ
Hydaticus rhantoides (Sharp, 1882)
西之表市川氏 (7.III 3♂1♀) (K)
西之表市西之表あっぱ〜らんど (8.III 1♂) (K)
西之表市住吉上熊野 (8.III 5♂) (K)
西之表市古田上之町 (20.III 1♂) (K)
南種子町荃永中之町 (21.III 1♂2♀) (K)
南種子町西之官三牧 (21.III 5♂4♀) (K)
南種子町荃永新上里 (21.III 2exs.) (K)
西之表市古田上之町 (3.X 1♀) (K)
南種子町中之上河内 (4.X 2♂2♀) (A)
〃 (4.X 3♂2♀) (K)
南種子町中之下夏田 (4.X 2♂2♀) (A)
〃 (4.X 1♂1♀) (K)
今回の調査で、最も多くの地点で見られ、個体数も多い。
- ・クロゲンゴロウ *Cybister brevis* (Aubé, 1838)
西之表市古田上之町 (20.III 1♂) (K)
採集できたのは上記の1地点のみだった。局地的で個体数も少ない。松井 (1988)、松井ほか (1988) によると種子島が南限であるという。現在も以南の地域での記録はない。
- ・コガタノゲンゴロウ
Cybister tripunctatus lateralis (Fabricius, 1798)
中種子町野間大牟礼 (20.III 1♂1♀) (K)
南種子町荃永中之町 (21.III 1♂) (K)
南種子町西之官三牧 (21.III 1♂4♀) (K)
南種子町中之下夏田 (4.X 2♀) (A)
〃 (4.X 1ex.) (K)
中種子町坂井 (4.X 2♂1♀) (A)
- ・ヒメフチトリゲンゴロウ
Cybister rugosus (Macleay, [1833])
種子島南部 (4.X 1♂) (K)
採集地は、中峯 (2020) で報告した場所と同じである。個体数は少なく、今後も安定して発生できる環境であるか分からない。希少種の継続的な保護と今後の調査の必要があるため、採集地の詳細は伏せる。(図7・8)

ミズスマシ科 Gyridae

- ・オオミズスマシ *Dineutus orientalis* (Modeer, [1776])
西之表市西之表あっぱ〜らんど (8.III 4exs.) (K)
西之表市古田上之町 (20.III 5exs.) (K)

- 南種子町荃永新上里 (21.Ⅲ 5exs.) (K)
 西之表市古田上之町 (3.Ⅹ 1ex.) (A)
 〃 (3.Ⅹ 6exs.) (K)
 南種子町中之下夏田 (4.Ⅹ 1ex.) (A)
 中種子町坂井 (4.Ⅹ 2exs.) (A)
- ・ミズスマシ *Gyrinus japonicus* (Sharp, 1873)
 西之表市古田上之町 (20.Ⅲ 2exs.) (K)
 中種子町野間大牟礼 (20.Ⅲ 14exs.) (K)
 南種子町荃永中之町 (21.Ⅲ 7exs.) (K)
 南種子町西之官三牧 (21.Ⅲ 9exs.) (K)
 前種に比べると個体数は少ない。松井 (1988),
 松井ほか (1988) によると, その時点でも個体数は少
 なく, 生息地は種子島と隼人町 (現在の霧島市) の
 みとある。その後, 塚田・福田 (2006), 中峯 (2020)
 の記録が追加されたが, いずれも種子島の記録であり,
 同島以外の県内生息地は見当たらない。

ガムシ科 Hydrophilidae

- ・トゲバゴマフガムシ *Berosus lewisius* (Sharp, 1873)
 西之表市住吉上熊野 (8.Ⅲ 1ex.) (K)
 南種子町中之上河内 (4.Ⅹ 9exs.) (A)
 〃 (4.Ⅹ 6exs.) (K)
- ・ゴマフガムシ *Berosus punctipennis* (Harold, 1878)
 中種子町野間大牟礼 (20.Ⅲ 1ex.) (K)
- ・マメガムシ *Regimbartia attenuata* (Fabricius, [1801])
 西之表市川氏 (7.Ⅲ 2exs.) (K)
 西之表市西之表あっぱ〜らんど (8.Ⅲ 1ex.) (K)
 西之表市住吉上熊野 (8.Ⅲ 2exs.) (K)
 中種子町野間大牟礼 (20.Ⅲ 1ex.) (K)
 南種子町荃永中之町 (21.Ⅲ 3ex.) (K)
 南種子町西之官三牧 (21.Ⅲ 8exs.) (K)
 南種子町中之下夏田 (4.Ⅹ 3exs.) (A)
 〃 (4.Ⅹ 2exs.) (K)
- ・チビマルガムシ
Paracymus orientalis (d'Orchymont, 1925)
 西之表市住吉上熊野 (8.Ⅲ 1ex.) (K)
 これまでの記録は無く, 種子島初記録と思われる。
 中島ほか (2020) には南西諸島には普通に見
 られる種とある。(図9)
- ・ガムシ *Hydrophilus acuminatus* (Motschulsky, 1854)
 西之表市西之表あっぱ〜らんど (8.Ⅲ 1ex.) (K)
 中種子町野間大牟礼 (20.Ⅲ 3exs.) (K)
 南種子町荃永中之町 (21.Ⅲ 1ex.) (K)
 南種子町西之官三牧 (21.Ⅲ 1ex.) (K)
 南種子町中之下夏田 (4.Ⅹ 1ex.) (A)
 〃 (4.Ⅹ 1ex.) (K)

- ・コガタガムシ
Hydrophilus bilineatus cashimirensis (Kollar & Redten
 bacher, 1844)
 南種子町西之官三牧 (21.Ⅲ 6exs.) (K)
 南種子町中之下夏田 (4.Ⅹ 2exs.) (K)
- ・ヒメガムシ
Sternolophus rufipes (Fabricius, [1792])
 西之表市川氏 (7.Ⅲ 4exs.) (K)
 西之表市西之表あっぱ〜らんど (8.Ⅲ 1ex.) (K)
 西之表市住吉上熊野 (8.Ⅲ 2exs.) (K)
 南種子町荃永中之町 (21.Ⅲ 1ex.) (K)
 南種子町西之官三牧 (21.Ⅲ 7exs.) (K)
 南種子町荃永新上里 (21.Ⅲ 1ex.) (K)
 南種子町中之上河内 (4.Ⅹ 1ex.) (A)
 〃 (4.Ⅹ 2exs.) (K)
 南種子町中之下夏田 (4.Ⅹ 4exs.) (A)
 〃 (4.Ⅹ 1ex.) (K)
 中種子町坂井 (4.Ⅹ 1ex.) (A)
- ・オオヒラタガムシ *Enochrus haroldi* (Sharp, [1884])
 南種子町中之下夏田 (4.Ⅹ 4exs.) (A)
- ・キイロヒラタガムシ
Enochrus simulans (Sharp, [1873])
 西之表市川氏 (7.Ⅲ 7exs.) (K)
 西之表市西之表あっぱ〜らんど (8.Ⅲ 1ex.) (K)
 西之表市住吉上熊野 (8.Ⅲ 4exs.) (K)
 南種子町西之官三牧 (21.Ⅲ 13exs.) (K)
 南種子町荃永新上里 (21.Ⅲ 1ex.) (K)
 南種子町中之上河内 (4.Ⅹ 1ex.) (A)
- ・ルイスヒラタガムシ
Helochares pallens (MacLeay, [1825])
 西之表市川氏 (7.Ⅲ 2exs.) (K)
 西之表市住吉上熊野 (8.Ⅲ 1ex.) (K)
 南種子町荃永中之町 (21.Ⅲ 1ex.) (K)
 南種子町西之官三牧 (21.Ⅲ 1ex.) (K)
 南種子町荃永新上里 (21.Ⅲ 1ex.) (K)
 南種子町中之上河内 (4.Ⅹ 3exs.) (A)
 〃 (4.Ⅹ 3exs.) (K)
- ・セマルガムシ *Coelostoma stultum* (Walker, [1858])
 南種子町西之官三牧 (21.Ⅲ 1ex.) (K)
 南種子町中之上河内 (4.Ⅹ 2exs.) (K)

ゾウムシ科 Curculionidae

- ・イネミズゾウムシ
Lissorhoptrus oryzophilus (Kuschel, 1951)
 南種子町中之上河内 (4.Ⅹ 2exs.) (A)

カメムシ目 (半翅目) HEMIPTERA

タイコウチ科 Nepidae

- ・ミズカマキリ *Ranatra chinensis* (Mayr, 1865)
西之表市川氏 (7.Ⅲ 1ex.) (K)
松井 (1988) による1987年の記録以降, 種子島での本種の記録がなく, 今回33年ぶりの記録となる。

ミズムシ科 Corixidae

- ・チビミズムシ属の一種 *Micronecta* sp.
西之表市川氏 (7.Ⅲ 10exs.) (K)
西之表市西之表あっぱ〜らんど (8.Ⅲ 11exs.) (A)
西之表市古田上之町 (20.Ⅲ 5exs.) (K)
- ・エサキコミズムシ *Sigara septemlineata* (Pavia, [1918])
西之表市川氏 (7.Ⅲ 9♂13♀.) (K)
中種子町野間大牟礼 (20.Ⅲ 5♂5♀) (K)
南種子町中之上河内 (4.X 3♂3♀ 1ex. 幼虫) (K)

マツモムシ科 Notonectidae

- ・マツモムシ *Notonecta triguttata* (Motschulsky, 1861)
西之表市川氏 (7.Ⅲ 2exs.) (K)
西之表市西之表あっぱ〜らんど (8.Ⅲ 1ex.) (K)
西之表市古田上之町 (20.Ⅲ 2exs.) (K)
西之表市古田上之町 (3.X 1ex.) (A)
南種子町中之上河内 (4.X 1ex.) (K)
- ・コマツモムシ *Anisops ogasawarensis* (Matsumura, 1915)
西之表市川氏 (7.Ⅲ 1♂) (K)
西之表市古田上之町 (20.Ⅲ 2♂2♀) (K)
中種子町野間大牟礼 (20.Ⅲ 1♂5♀) (K)
西之表市古田上之町 (3.X 1♂) (K)
南種子町中之上河内 (4.X 1♂) (A)
- ・イシガキコマツモムシ *Anisops occipitalis* (Breddin, 1905)
南種子町茎永中之町 (21.Ⅲ 1♂) (K)
種子島からの2頭目の記録になる。(図10)
- ・ヒメコマツモムシ *Anisops tahitiensis* (Lundblad, 1934)
西之表市古田上之町 (20.Ⅲ 1♂3♀) (K)
中種子町野間大牟礼 (20.Ⅲ 8♂4♀) (K)
南種子町茎永中之町 (21.Ⅲ 8♀) (K)
南種子町西之官三牧 (21.Ⅲ 1♀) (K)
南種子町茎永新上里 (21.Ⅲ 1♂1♀) (K)
西之表市古田上之町 (3.X 1♀) (K)
南種子町中之上河内 (4.X 1♀) (A)
- ・チビコマツモムシ *Anisops exiguus* (Horváth, 1919)
西之表市古田上之町 (20.Ⅲ 1♂6♀) (K)
南種子町茎永中之町 (21.Ⅲ 9♂11♀) (K)
南種子町西之官三牧 (21.Ⅲ 7♂19♀) (K)

- 南種子町茎永新上里 (21.Ⅲ 1♂2♀) (K)
- 南種子町中之上河内 (4.X 2♂) (A)
- 〃 (4.X 1♂) (K)
- 南種子町中之下夏田 (4.X 5♂3♀) (K)
- ・ハナダカコマツモムシ *Anisops nasutus* (Fieber, 1851)
西之表市古田上之町 (20.Ⅲ 2♂2♀) (K)
西之表市古田上之町 (3.X 1♂1♀) (K)

マルミズムシ科 Pleidae

- ・マルミズムシ *Paraplea japonica* (Horváth, [1904])
南種子町西之官三牧 (21.Ⅲ 18exs.) (K)

イトアメンボ科 Hydrometridae

- ・ヒメイトアメンボ *Hydrometra procera* (Horváth, 1905)
西之表市古田上之町 (3.X 1♂) (K)
オキナワイトアメンボと同じ場所で採集した。
中島ほか (2020) によると国内での分布は北海道, 本州, 四国, 九州, 対馬であり, これまで種子島での記録は無かった。今回が初記録となる。(図11)
- ・オキナワイトアメンボ *Hydrometra okinawana* (Drake, 1951)
西之表市住吉上熊野 (8.Ⅲ 3♂3♀) (K)
西之表市古田上之町 (20.Ⅲ 1♂1♀) (K)
南種子町茎永中之町 (21.Ⅲ 6♂6♀) (K)
西之表市古田上之町 (3.X 1♂1♀) (K)
南種子町中之下夏田 (4.X 1♂) (K)

カタビロアメンボ科 Veliidae

- ・ケシカタビロアメンボ属の一種 *Microvelia* sp.
西之表市住吉上熊野 (8.Ⅲ 1ex.) (K)
南種子町中之上河内 (4.X 2exs.) (A)
- 〃 (4.X 1ex.) (K)

アメンボ科 Gerridae

- ・ヒメセスジアメンボ *Neogerris parvulus* (Stål, [1860])
南種子町西之官三牧 (21.Ⅲ 10♂8♀ 4exs. 幼虫) (K)
幼虫も得られ, 個体数も多いことから定着の可能性がある。(図12)
- ・アメンボ (ナミアメンボ) *Aquarius paludum paludum* (Fabricius, [1794])
西之表市西之表県農業試験場近く (7.Ⅲ 2♂2♀.) (K)
- ・コセアカアメンボ *Gerris gracilicornis* (Horváth, [1879])
西之表市川氏 (7.Ⅲ 1♂2♀) (K)
西之表市古田上之町 (20.Ⅲ 2♂2♀) (K)
中種子町増田二十番 (20.Ⅲ 2♂1♀) (K)

- 南種子町荃永中之町 (21.Ⅲ 1♀ 1ex.幼虫) (K)
- ・ヒメアメンボ *Gerris latiabdominis* (Miyamoto, 1958)
 - 西之表市川氏 (7.Ⅲ 3♂3♀) (K)
 - 西之表市西之表あっぱ〜らんど(8.Ⅲ 1♂1♀) (A)
 - 〃 (8.Ⅲ 1♀) (K)
 - 西之表市古田上之町 (20.Ⅲ 3♂3♀) (K)
 - 西之表市西之表池野 (20.Ⅲ 2♂) (K)
 - 西之表市安城立山 (20.Ⅲ 2♂4♀) (K)
 - 中種子町野間大牟礼 (20.Ⅲ 5♀) (K)
 - 南種子町荃永中之町 (21.Ⅲ 2♂1♀) (K)
 - 南種子町西之官三牧 (21.Ⅲ 1♂) (K)
 - 南種子町荃永新上里 (21.Ⅲ 1♂) (K)
 - ・シマアメンボ *Metrocoris histrio* (White,[1883])
 - 西之表市西之表石堂 (7.Ⅲ 2♀ 1ex.幼虫) (K)
 - 西之表市西之表あっぱ〜らんど (8.Ⅲ 1♂) (A)
 - 南種子町西之官三牧 (21.Ⅲ 3♂1♀) (K)
 - 西之表市国上湊川へゴ自生地入口 (3.X 1♂) (A)
 - 〃 (3.X 1♂2♀) (K)

メミズムシ科 Ochteridae

- ・メミズムシ

Ochterus marginatus marginatus (Latreille,1804)

南種子町中之上河内 (4.X 1ex.幼虫) (A)

中島ほか(2020)によると国内での分布は北海道, 本州, 四国, 九州, 南西諸島までであるが, これまで種子島での記録は無く, 今回が初記録となる。標本化してから, 体が泥で汚れていたのが気になったが, 中島ほか(2020)によると, 幼虫は背面に泥や土を乗せることが知られているようである。(図13)

4 結果と考察

本調査により, 2目14科51種の昆虫類が確認された。科別で見るとゲンゴロウ科14種, ガムシ科11種, マツモムシ科6種の順が多い。これらを合わせると確認された全種の約60.8%を占める。

また, 確認した水生昆虫の中で, 環境省レッドリスト(環境省2020)と改訂鹿児島県の絶滅のおそれのある野生動植物動物編(鹿児島県2016)に掲載された種をとり上げると11種であった。(表1) 全種の約21.6%を占める。

表1 確認された指定種

	科	種名	環境省(2020)	鹿児島県(2016)
1	コガシラ ミズムシ科	マダラコガシラ ミズムシ	絶滅危惧Ⅱ類(VU)	-
2	コツブ ゲンゴロウ科	ムツボシツヤ コツブゲンゴロウ	絶滅危惧Ⅱ類(VU)	-
3	ゲンゴロウ科	コマルケシゲンゴロウ	準絶滅危惧(NT)	-
4	〃	シマゲンゴロウ	準絶滅危惧(NT)	-
5	〃	クロゲンゴロウ	準絶滅危惧(NT)	準絶滅危惧
6	〃	コガタノゲンゴロウ	絶滅危惧Ⅱ類(VU)	-
7	〃	ヒメフチトリ ゲンゴロウ	絶滅危惧Ⅱ類(VU)	絶滅危惧Ⅰ類
8	ミズスマシ科	オオミズスマシ	絶滅危惧Ⅱ類(VU)	-
9	〃	ミズスマシ	-	絶滅危惧Ⅱ類
10	ガムシ科	ガムシ	絶滅危惧Ⅱ類(VU)	準絶滅危惧
11	〃	コガタガムシ	絶滅危惧Ⅱ類(VU)	絶滅危惧Ⅱ類

今回の調査では, 松井(1988), 松井ほか(1988)や中島ほか(2020)に掲載の種で, これまでに筆者らが採集できていない種が15種ほどある。特に, コウバツブゲンゴロウ, シャープツブゲンゴロウ, ヤマトホソガムシ, タマガムシ, ミユキシジミガムシ, ウスグロヒラタガムシ, タイコウチ, チビミズムシ, コミズムシは, 1987年以降, 種子島からの報告は無く, 今後, 生息の有無を注視したい。

このほか, 複数の未同定の標本がある。いずれも, 比較のための個体や交尾器形態の精査が必要なため, 今後, 別に報告することとする。

本調査でも, 水生昆虫の新たな生息地が複数発見された。それらは森林と隣接したり, 水生植物が繁茂する環境だったり, 湧水からの流れ込みがある耕作放棄地, 大小のため池が隣接する水田, あるいは, この地域で「よこちえ」と呼ばれる水田脇の水たまりや土水路などである。このような生息地は, 水生昆虫の生活に必要な多様な微環境を提供している。

また, 既知生息地では, 以前の調査と比べて水量が減少していたり, 陸化が進んでいたりと, 生息環境の消失が懸念される地点もあった。生息地周辺の水辺のネットワークがうまく機能し, 季節や環境に応じて水生昆虫類が行き来できる状態が維持されてほしい。

引用・参考文献

鹿児島県(2016)改訂・鹿児島県の絶滅のおそれのある野生動植物 動物編-鹿児島県レッドデータブック-. 401pp. 鹿児島県環境技術協会. 鹿児島.

環境省レッドリスト(2020):

www.env.go.jp/press/107905.html2014

松井英司(1988)1987年水生昆虫採集記(種子島).
Satsuma(99):1-10.

松井英司・高井泰・田辺力(1988)鹿児島県の水生
昆虫相.Satsuma(100):61-115.

松井英司(2003)鹿児島県で採集された水生昆虫類.
Satsuma(128):11-16.

森正人・北山昭(2002)改訂版図説日本のゲンゴロ
ウ.231pp.文一総合出版,東京.

中峯浩司(2020)2018年と2019年に種子島で採集し
た水生昆虫類.Satsuma(165):147-157.

中島淳,日本産真正水生昆虫リスト:

<http://kuromushiya.com/mlist/mlist.html>

中島淳・林成多・石田和男・北野忠・吉富博之
(2020)日本の水生昆虫.351pp.文一総合出版,
東京.

塚田拓・福田晴夫(2006)南種子町長谷池にてオオ
ミズスマシとミズスマシを確認.Satsuma
(135):178

屋富祖昌子・金城政勝・林正美・小濱継雄・佐々木
健志・木村正明・河村太(2002)琉球列島産昆
虫目録 増補改訂版.570pp.沖縄生物学会.沖縄



図2 10月4日・オオミズスマシの生息する池



図3 10月4日・カダヤシとともに網に入ったオオ
ミズスマシ



図4 マダラコガシラミズムシ



図5 サザナミツブゲンゴロウ



図6 ホソセスジゲンゴロウ(♂交尾器)



図7 ヒメフチトリゲンゴロウ (表)



図8 ヒメフチトリゲンゴロウ (裏)



図9 チピマルガムシ



図10 イシガキコマツモムシ



図11 ヒメイトアメンボ 腹端



図12 ヒメセスジアメンボ



図13 メミズムシ(幼虫)